

EU輸出向けてん茶(一番茶)の防除体系を作成

■開発のねらい

近年の世界的な緑茶ブームにより、宇治茶の輸出拡大に向けた取り組みが行われています。しかし、海外の農薬残留基準値は日本と異なり、輸出の障害になっています。そこで、EUで日本と同等の基準値がある農薬や、農薬以外の防除技術を組み合わせ、EU向け茶生産指針と防除体系案を作成しました。

■技術の効果

- ・表1の農薬により、一番茶期の主要病害虫は概ね防除可能
- ・ハマキコンN[®](フェロモン剤)のロープ型製剤は、6月に覆い棚に結束設置する簡単な方法でチャノコカクモンハマキに対する防除効果を発揮(図1)
- ・表1の農薬と、散布後に減衰が早い農薬を組み合わせた防除体系案を作成(表2)

■経営の評価

防除体系案による防除でも、製茶品質を慣行防除と同等に保つことができます。

■普及のポイント

農薬の残留は、薬剤の種類、栽培条件などによって変化します。また、EUの残留基準値は事前連絡なく変更されることがあるため、注意してください。詳しくは農林水産省のマニュアル等を参照してください。

http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/export_manual.html

http://www.maff.go.jp/j/export/e_shoumei/zannou_kisei.html

表1 EU輸出向け防除体系で一番茶期の防除に使用できる農薬

対象病害虫	使用可能農薬(商品名)
赤焼病	ムッシュボルドー コサイド 3000
カンザワハダニ	バロックフロアブル
チャノキイロ	カスケード乳剤
アザミウマ	コテツフロアブル
チャノホソガ	カスケード乳剤
チャトゲコナジラミ	コテツフロアブル ダニゲッターフロアブル

農薬が分解しにくい遮光条件下(遮光率98%)で散布し、EUの分析機関で残留分析を行った。

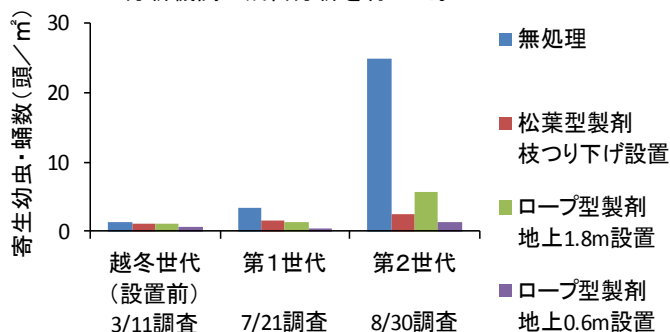


図1 トートルリア剤(商品名 ハマキコンN[®])の設置方法とチャノコカクモンハマキ密度

表2 EU輸出向けてん茶(一番茶)栽培における防除体系案

	吸汁性害虫	ダニ類	病害	代替農薬例
1月	ブルートMC(15)			マシン油(除外)
2月			銅水和剤(40)	
3月		ダニゲッター(50)		
4月	コテツ(50)、カスケード(15)	バロック(15)		
5月				
6月	ハマキコンN(除外)			アフーム(0.02)、ディアナSC(0.1)
7月	ウララDF(0.05)	マイトコーネ(0.05)	ダコニール1000(0.05)	アクテリック(0.05)
8月	コルト(-)	アブロードエース(0.05, 0.1)	インダー(0.05)	スブラサイド(0.1)、キラップ(-)
9月	ダントツ(0.7)	ピラニカEW(0.1)	スコア(0.05)	ミルベノック(0.1)、スピノエース(0.05)
10月	テルスター(5)	サンマイト(0.05)	アミスター(0.05)	ロディー(2)、バリアード(10)
11月			フロンサイドSC(0.05)	銅水和剤(40)
12月				

カッコ内の数字はEUの残留基準値(ppm)(2016年7月15日現在)。農薬登録確認日:2016年7月15日

下線:基準値はEU<日本だが、減衰特性から基準値超過リスク低い

斜体:基準値はEUで未設定だが(一律基準0.01ppmが適用される)、減衰性が高いことから基準値超過リスク低い